

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森脇 幸	電話番号	0852-22-5346
----------	------	------	--------------

事務事業の名称	自然公園管理事業		
目的	(1) 対象	自然公園利用者	
	(2) 意図	安全で快適な利用の確保を図る。	
事業概要	県内の自然公園（国立公園、国定公園、県立自然公園）では、各公園計画に基づき、公園を利用するための施設（遊歩道、駐車場、公衆トイレなど）が整備されている。このうち、県が整備した遊歩道や施設について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等施設の日常管理を委託している。また、快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行っている。更に、自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努めている。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 自然公園の利用者数	目標値		9,330.0	9,330.0	9,330.0	9,330.0	千人
		取組目標値		12,370.0	12,370.0	12,370.0	12,370.0	
	式・定義 自然公園の利用者数	実績値	12,370.0	11,657.0				
		達成率	-	94.3				
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	21,211	44,484
うち一般財源 (千円)	16,242	19,483

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○自然公園、自然歩道の利用者数は、出雲大社の遷宮ブームが落ち着いてきたため、出雲大社の利用者は減少傾向にあるが、他方で国立公園満喫プロジェクトや広域観光周遊ルート（縁の道）などの認定に伴い利用者の増加も見込まれる。
○自然公園内における県所管施設の維持修繕を行う一方、危険箇所については、通行止めなどの対応により、利用者の安全確保に努めた。また、パンフレットの配布、県ホームページ等により公園情報の提供と利用促進に努めている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 危険な箇所は、通行止めにより、自然公園の安全性の確保が図られた。
- 県のホームページにより季節の旬の情報を提供したことで、公園利用者への利便提供となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・除草など苦情・連絡が多い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
過去に整備した施設の老朽化が進んでいる。自然災害による倒木・落石などが多数発生している。
- ③原因を解消するための「課題」
○古い施設が多い
○施設修繕や倒木・落石などの処理に対する予算、体制が十分でないことから、復旧できていない箇所があり、利用者の要望に答えることが出来ない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進める。
- 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、不要な施設は撤去又は地元市町村へ譲渡する。
- 国立公園満喫プロジェクトにより国立公園内の施設整備を行う。また、その他の自然公園（国定公園、県立自然公園）においても、国立公園と連携して利用が促進されるよう安心安全で快適な施設整備を行っていく。
- 自然保護レンジャー等によるボランティア整備事業を拡充し支援する。
- 通行止め等の復旧予算や、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるように整備に努める。
- 県の整備した遊歩道や施設の除草、清掃、パトロールの市町村委託を強化し、地元の協力を得ながら管理運営をしていく。